



「緑の募金」使途限定募金(平成28年熊本地震復興支援事業)

復興アクション「森のチカラで、日本を元気に。」



緑の募金

“緑と木の温もり”で熊本の復興を支援!

～使途限定募金(緑の募金)を呼びかける「くまモン」木製ピンバッチを製作～

平成28年4月14日から熊本県を中心に発生した平成28年熊本地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

(公社)国土緑化推進機構では、この災害に対し、「緑の募金」としての支援を行うこととし、**「緑の募金」使途限定募金(平成28年熊本地震復興支援事業)**を行うこととしました。具体的な取り組みは、①被災森林の復旧に向けた緑化活動、②避難所や学校周辺における緑化活動等の支援を行うこととしています。

今回の震災においては、余震の長期化と家屋の損壊等による避難所生活の長期化等が懸念されるところであり、避難所におけるプライバシー保護や生活環境の改善等のニーズが高まっています。

当機構では、平成23年の「東日本大震災」における支援実態と被災地からのニーズを踏まえ、当面の対応として、避難所等における間仕切りや生活用品を整理する棚として活用できるよう、**組立て什器(間伐材等を使用した木製キット)の寄贈等を行うこととし、熊本県西原村を皮切りに寄贈等を開始したところ**です。

今後、継続して被災地の緑化支援を通じての復旧・復興支援を続けることとしておりますが、幅広く被災地の復旧・復興支援を呼びかけるため、そのシンボルとして、**熊本県産のスギを使用し、熊本県内で加工された「くまモン」の木製チャリティ・ピンバッチを制作**しました。そして、5月14～15日(土～日)に日比谷公園で開催される**「みどりとふれあうフェスティバル」(農林水産省・林野庁等主催)**から募金協力者への配布を開始します。

本取組の趣旨をご理解頂き、幅広いご支援の呼びかけに、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※ 詳しくは、「緑の募金」使途限定募金(平成28年熊本地震復興支援)の「[お願い](#)」及び「[パンフレット](#)」をご覧ください。



(熊本県産スギを使用した**ピンバッチ**)



(阿蘇五岳と熊本城を描いた台紙)



(「くまモン」が呼びかける募金箱)

◆「くまモン」チャリティ・ピンバッチ 概要

1. 材料：熊本県産スギ
2. 製作：熊本県・小国町森林組合
3. 配布：1,000円以上の募金協力者に配布
4. 入手方法：以下のイベント等で配布します。
 - ①5/14-15 「みどりとふれあうフェスティバル」
(東京都千代田区「日比谷公園」)
<http://midorinokanshasai.com/>
 - ②5/16-20 農林水産省「消費者の部屋」
(東京都千代田区霞が関1-2-1)
<http://www.maff.go.jp/j/heyau/>
 - ③国土緑化推進機構WEBサイト・申込フォーム
<http://www.green.or.jp/> (「トピックス」欄 参照)

◆「緑の募金」使途限定募金 (平成28年熊本地震復興支援事業) 概要

1. 実施者：(公社)国土緑化推進機構
2. 開始日：平成28年4月19日
3. 使途等：①被災地の森林復旧に向けた緑化活動等
②避難所や学校周辺における緑化活動の支援
4. 実施形態：次の方法により受付
 - ①個人募金、②街頭募金、③企業募金、
 - ④職場募金、⑤店頭募金、⑥協賛募金
5. 振込方法：郵便口座、銀行口座、インターネット募金等により受付
6. その他：詳しくは、「緑の募金」使途限定募金の「[お願い](#)」及び「[パンフレット](#)」をご覧ください。

◆間伐材等組立てキット「組手什」寄贈概要

宮城県・福島県・愛知県・鳥取県の生産者の協力を得て、避難所等におけるプライバシーの保護や生活用品の整理等を支援するために、「緑の募金」により、間伐材等を使用した組立て什器「組手什」の寄贈を開始しました。

【第1回寄贈 概要】

1. 寄贈日程

平成 28 年5月7日(土)・8日(日)

2. 寄贈先

熊本県西原村 山西小学校 避難所

3. 寄贈経緯

- ・西原村は、1,431 棟が全半壊の被害を受けるなど、長期的な避難者が多い地域
- ・避難所の統廃合(6ヶ所から3ヶ所)と小学校開校に合わせて、避難者の生活用品等を整理するとともに、プライバシー保護等が必要な状況
- ・このため、「組手什」の寄贈を要望

4. 組手什生産協力者

- ①宮城県登米市「登米町森林組合」
- ②宮城県栗駒市「日本の森バイオマスネットワーク」
- ③福島県古殿町「古殿町役場」
- ④愛知県名古屋市「組手什おかげまわし東海」

⑤鳥取県鳥取市「賀露おやじの会」

(※)①・②の団体は、「東日本大震災」の復旧・復興支援活動を契機に、「組手什」の生産をはじめた団体

5. 設置指導者

- ①愛知県名古屋市「組手什おかげまわし東海」
- ②熊本県熊本市「九州森林インストラクター会」

6. 寄贈結果

- ・生活用品の整理やプライバシー保護等のための整理棚としての「組手什」は好評を得た。
- ・自由に組み立てられる「組手什」の特色から、家族で用途を考えて、洋服かけや化粧棚、ランドセルを入れる棚などを自由に制作
- ・子どもから大人まで、また女性などの様々な年代の方々が参加して、楽しみながら組立て
- ・協力者や視察者等からも、他の避難所での寄贈要望が上がった

【今後の寄贈予定】

被災地・避難所等のニーズを踏まえて寄贈を実施



(宮城県登米市からのトラックが到着)



(各地で生産された「組手什」を荷卸し)



(子どもから大人まで参加して組立て)



(パーティション 兼 整理棚として配置)



(ランドセル等を入られる整理棚)



(洋服かけや化粧台等を兼ねたラック)



(食器・食品等を整理できる棚)



(傘立てとしての使用)



(下駄箱や新聞ラック等としての使用)

◆本件に関するお問合せ先

公益社団法人国土緑化推進機構 (担当:募金部 秋元・小林、政策企画部 富永・木俣)

TEL:03-3262-8451 FAX:03-3264-3974 E-mail:bokin@green.or.jp